

ドックベストセメントについての見解

要旨

1. ドックベストセメントは、わが国の薬機法で承認されていない。
2. ドックベストセメントを用いた治療の安全性と有効性に関する高いレベルの科学的根拠が示されていない。
3. 日本歯科保存学会が推奨するう蝕治療処置として容認することは難しい。

う蝕治療については、FDIが推奨するMinimal Intervention Dentistry (MID)¹⁾に基づく歯質保存的な治療が現在の主流である。日本歯科保存学会においては、これまでにもう蝕治療ガイドラインを作成し、数年ごとに版を重ね²⁻⁴⁾、その中で科学的根拠に基づくう蝕治療法について具体的に提示している。

近年、ドックベストセメントを用いたう蝕処置に関する書籍の出版やインターネットによる情報発信が行われ、大学等に患者からの問い合わせの事例も見受けられる（資料：ドックベストセメント治療に関する事例調査アンケート）。

ドックベストセメントとされる「Doc's Best Copper Cement」の組成は、酸化亜鉛、酸化マグネシウム、フッ化カルシウムなどから構成されるが⁵⁾、本材料はわが国の「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」（薬機法）では承認されていない。

現時点（2024年7月）におけるドックベストセメントを用いたう蝕治療に関する文献を検索したところ、ドックベストセメントとレジンを含むバーニッシュの混合物による根面の抗菌性と抗う蝕性を評価した実験室で得られた報告のみである⁶⁾。一方、ドックベストセメントを用いたう蝕処置についての臨床研究は、学術雑誌の原著論文としては確認できず、安全性と有効性に関する高いレベルの科学的根拠が示されていない。

以上のように日本歯科保存学会は、本材料を用いたう蝕処置についての高いレベルの科学的根拠がないため、容認することは難しいと考えるものである。

（参考文献）

- 1) FDI. FDI policy statement on Minimal Intervention Dentistry (MID) for managing dental caries: Adopted by the general assembly: September 2016, Poznan, Poland. Int Dent J 2017; 67: 6-7.
- 2) 日本歯科保存学会編, MI (Minimal Intervention) を理念としたエビデンス (根拠) とコンセンサス (合意) に基づくう蝕治療ガイドライン. 京都: 永末書店; 2009.
- 3) 日本歯科保存学会編. う蝕治療ガイドライン. 第2版. 京都: 永末書店; 2015.
- 4) 日本歯科保存学会編. 根面う蝕の診療ガイドライン—非切削でのマネジメント—. 京都: 永末書店: 京都; 2022.
- 5) Doc's Best White Copper Cement; MSDS No. # 4064 & 4065; Temrex Corporation: Freeport, NY, November 30, 2017.
- 6) Thneibat A, Fontana M, Cochran MA, Gonzalez-Cabezas C, Moore BK, Matis BA, Lund MR. Anticariogenic and antibacterial properties of a copper varnish using an in vitro microbial caries model. Oper Dent 2008; 33: 142-148.